

特別展示「京都市考古資料館と建築家 本野精吾 —竣工100年を記念して—」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



展示風景

京都市考古資料館では、国立大学法人京都工芸繊維大学の御協力を受けて、平成26年度後期特別展示として「京都市考古資料館と建築家 本野精吾—竣工100年を記念して—」を開催しております。

京都市考古資料館の建物は、西陣織の製品を展示・陳列する西陣織物館として西陣織物同業組合により建築が進められ、本野精吾の設計、清水組（現在の清水建設）の施工により大正3年（1914）に竣工しました。本野精吾は京都高等工芸学校（現在の京都工芸繊維大学）教授として建築・デザイン教育に携わった人物で、モダニズム

（近代主義）建築の先駆者としても知られています。この建物は本野の設計による日本におけるモダニズム建築黎明期の作品として、建築史の中で重要な位置を占めていることから、京都市の有形文化財に登録されています。

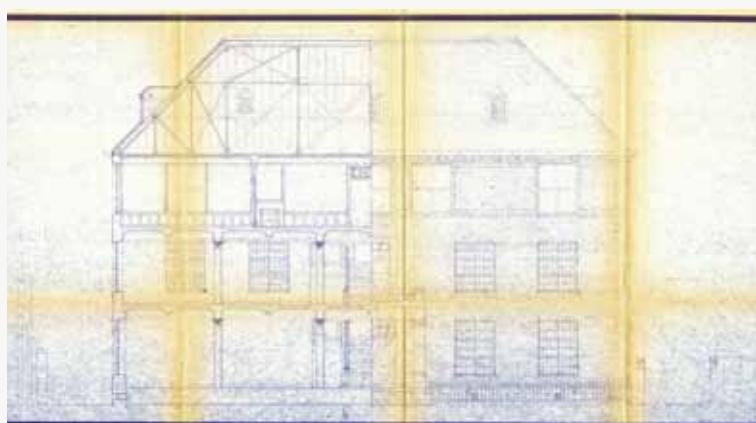
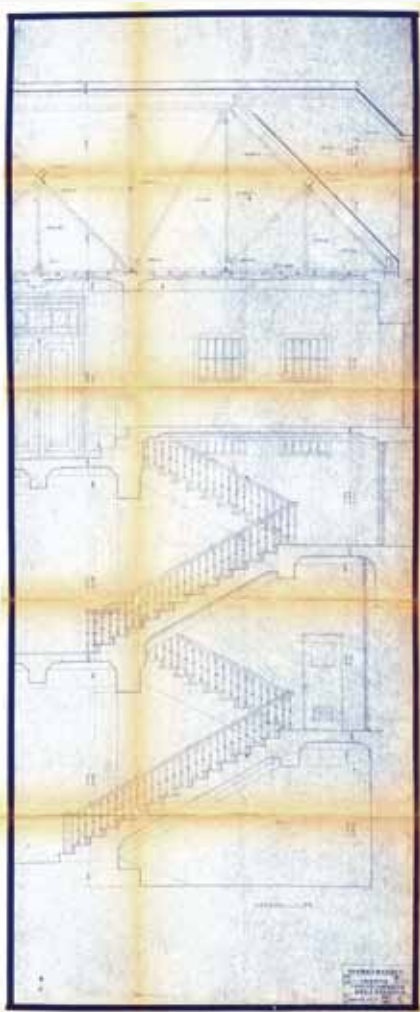
京都市考古資料館は、京都市がこの建物の寄贈を受け、補強・改修工事を施したのち、遺跡の調査・研究から明らかになった京都の歴史を紹介する施設として、昭和54年（1979）11月28日に開館しました。今年度は開館35周年にあたります。

今回の特別展示では、建物の竣

工100年を記念して、京都市考古資料館の建物や建築家本野精吾の業績とともに、京都市考古資料館35年間のあゆみを紹介します。合わせて、京都市内に現存する近代建築の写真パネルや近代建造物の遺跡・出土遺物を陳列いたします。また、期間中には建築当初の姿をよく残している、旧西陣織物館貴賓室を期間限定で特別公開しております。

今回の展示が、今も町並みの中にたたずむ文化財としての近代建築に関心を持っていただく機会となれば幸いです。

（山本雅和）



詳細断面図（左） 東側立面図（右上） 南側立面図・断面図（右下）

京都市考古資料館実測図

これらの図面は京都市考古資料館開館にあたって、大阪市立大学工学部建築学科建築史および建築計画研究室により作成された建物の実測図です。改修工事以前の西陣織物館の構造を知ることができます。



現存する京都市内の近代建築

京都大学文学部陳列館（左）・レストラン菊水（中）・旧京都中央電話局（右）



近代建造物の遺跡

二条駅転車台（左）・昭和天皇即位大礼饗宴殿柱穴列（中）・丸物百貨店コンクリート基礎列（右）